

昔語
車
之
質
屋

初

開



この編ハ故事俗説の錯悞を辨じ、童蒙讀史の階梯とせり。此の如く

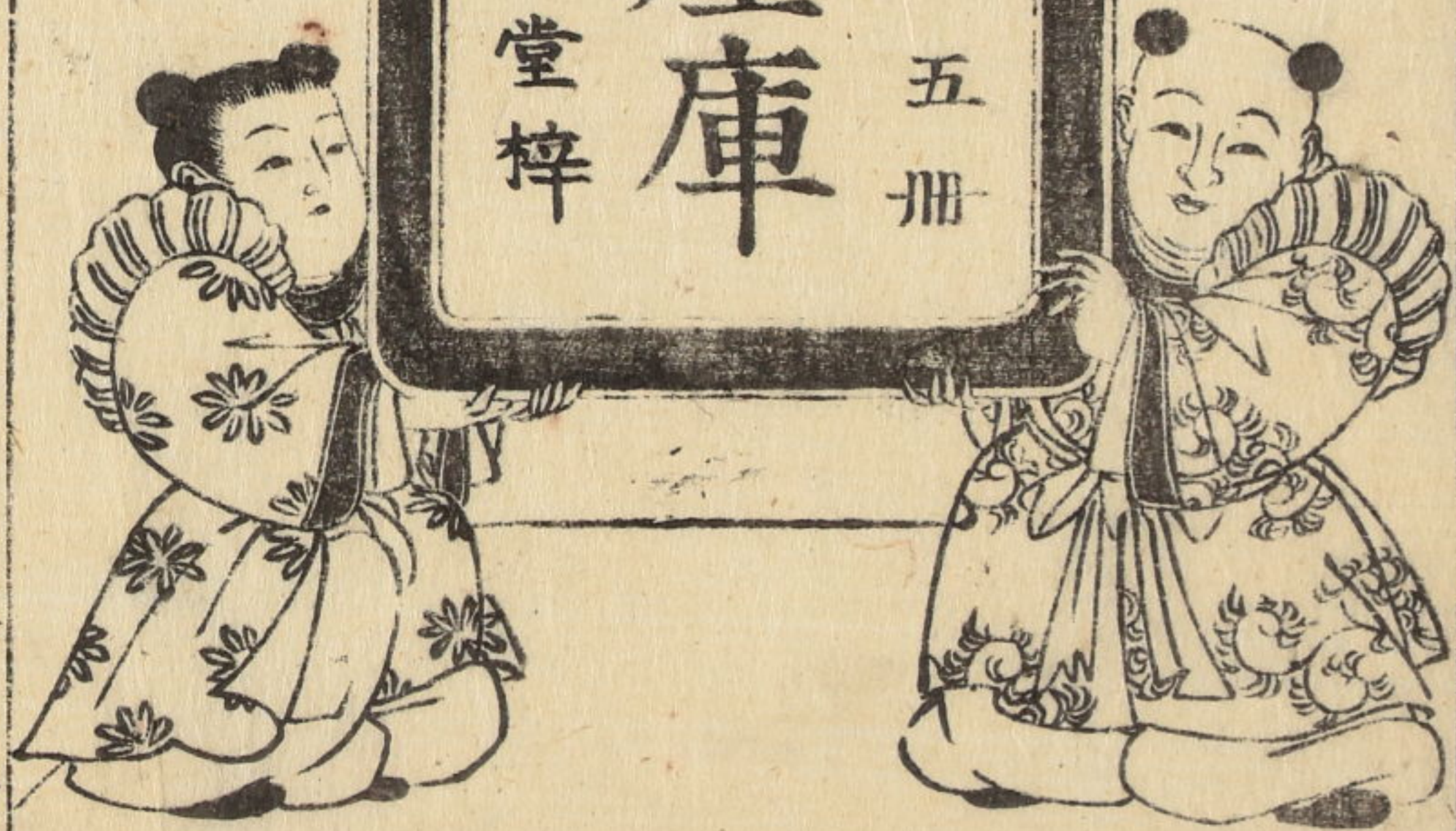
飯台曲亭翁著演

初編五冊

昔語質屋庫

文金堂梓

春亭勝川主人畫



文辭櫻襖といふものも本据ありて標本房様持と海京布く所以あり

自叙

雕窩

武州 全書 腰越

余見或の冊子字綴る。法を之松乃
言ふはくも。勉て節意を分る。可上心
事俗説の異同を辨る。此字推象を
得て成す。故らるる。此の夜ある。
比余の事。子なる。案は。圍繞。一。を
この説。子。極。んと。何。なる。志。の。れ。と
大。事。耳。年。よ。く。い。ひ。此。時。を

昔語質屋庫

歌書
李も軍
書平
高き吉
野山
録支考
勺

静吉業

山のふもと
たふらふ
わり帰る
る記時也
来ぬ
よ

し
を



栄枯
得失の
譬
南朝の公卿

落
魄の
と

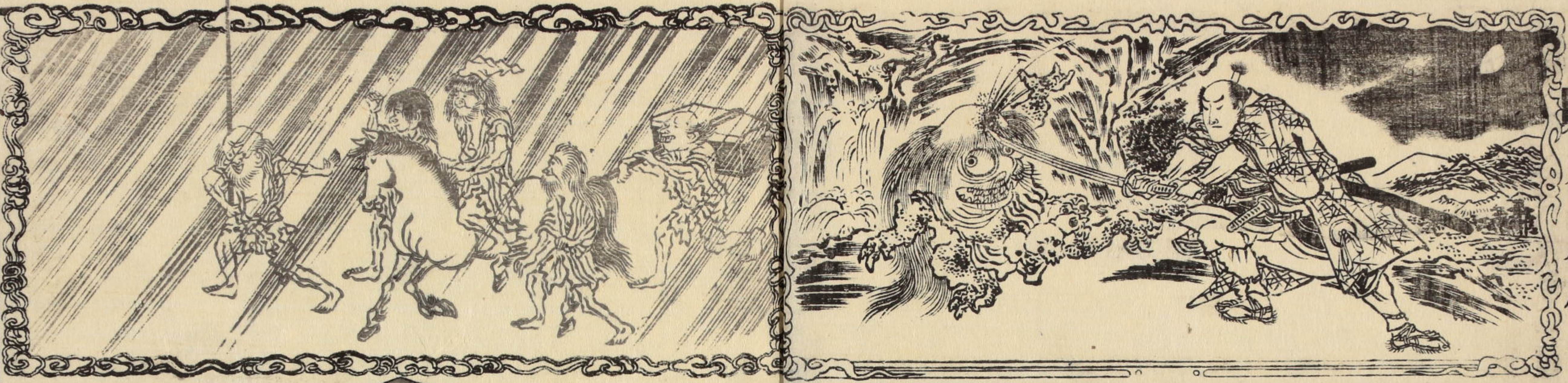


典物の譬
燕太子丹
奉

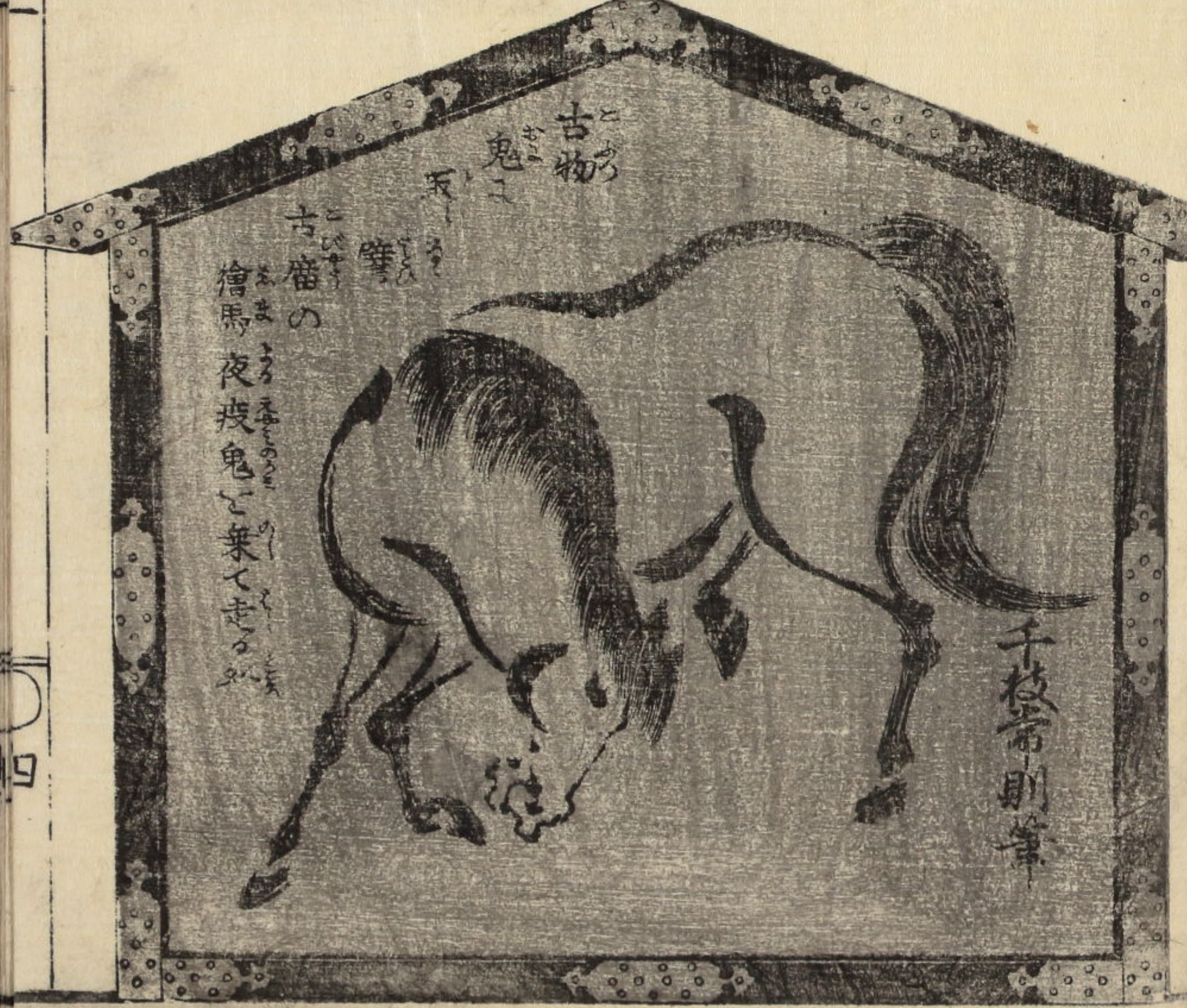
物と

義仲の
息義隆
故郷を
おろし





古物怪とるの譬
石像地藏妖
族客小
故ふる
SILE



古物
鬼
古物
古物の
僧馬夜疫鬼と乗て走る

千枝翁別筆

昔語 實屋庫初編總目錄

- 發端 室咲の質莖
- 第一 讀書先生款案
- 第二 友切丸
- 第三 曾我十郎衛小紋衣袖
- 第四 諸葛孔明陣大鼓
- 第五 依藤太龍宮入の弓袋
- 第六 石堂九高野詣脚絆
- 第七 平將門哀龍製東
- 第八 眉間尺髑髏盃
- 第九 橋逸勢薄命一行物
- 第十 紀名虎錦繡梳鼻禪
- 第十一 袈裟御前苦節袿
- 第十二 九尾狐裘
- 第十三 崇徳院天狗爪取剪
- 第十四 鎌倉時代の上下
- 第十五 米糞上人の乞食袋

通計一十六條 完

昔語 實屋庫卷之一

東都

曲亭馬琴演

發端 室咲の質莖

行々相値莖々相望枝々相準。葉々相向華々相順。實々相當。此無量壽経よ所言。天宮の空樹やうて塵世の所ふあふと。洪容齋が隨筆と引くや霞も雲井よまか入南都の皇居より遠からぬ六田の御の質屋と。マ理多和訓由典物と。預り世渡りう野五器堅い牙上羨々。好事屋宝樹とのみのありけり。後醍醐帝の延元より。後龜山院の天授まで南帝三世俺ハ二代あうく好夏小耽にふ。道具質よりて活業ととさぬいふ。足らぬ世草ハ夏冬の入替り。のこりて。毫毛取らる質草の小紫うら枯らるまかふ南朝

元来難法の時の要ふ鼻と割談は漏どして大臣納言辨參議槐
 門の公族も先祖傳來の什物と好ま屋か庫住ひうて八月限りの大
 衝波將又流まんところと死よ利足の碇は怒りさ苗と夏の虫乾ゆ人ふ
 任し冬の火災も苦ふゆの松とつが物やてつが物あるぬ金か敵の世と
 さまじくせん世紙袴と十文字裸裎の中あつとつともその罪はあつどと
 つつてその子よりつて借残と譲る質札恨しとつ凡夫の愛惜心かの
 質庫は替りあはじけかゆ兩夜長月の簷の玉木奇寂て遠寺寺この
 撞枕よかよと店の真間高射主管か断齒ハ浴室の漬の栓挽とと
 おのぐら関くかどく。丁稚が寐語ハ燈市の点鼓囉小曰あり又炊妻
 が森がりの米俵と投るかどく。女ユカ外と枕ハ輾る綿桶も由似る
 べ九少壯の寐而不寤所以ハ血氣盛ハ肌肉滑ハ氣道通と管衛の
 行ぞの常と失つど故よ昼ハ精よて夜ハ覺せども寤ど又老人ハ血氣
 衰へその肌肉澤ハど管衛の道瀆るハふ登と精もらじど。夜と
 寐らじどと難経の四十六難ハ説とと。宝樹ハ今茲五十六歳夜寤
 れぬハ本来の老人質氣といひながら。りりり病ハの不寐病人と
 たのまぬ金の衛と。らららと睡とと。嚙つくやうある門の物一馬場
 責る天井の氣ハ枕敷てつが宿るがら密と起ちつとつ控る鐵網の手燭と
 袖りてら掩ひ納戸客房。庖厨やと三遍廻とバ怪しう。質庫のかまど
 のの声をそ笑えよけと。とハ盜賊よと胸らら強ど卧る主管小野木と
 吸びすんさやと。とどひハ。積ハ舊のどくるハ賊の入るべとさうハは。まが
 為体と見定めんと流石ハ老功氣と結めて怪するがら驚く足とを翻
 息と蓋庫の戸ハ立よと。細戸の目よりと。覗けハ二階くく洩る燭臺の

經緯
 精精
 不倦
 又云
 謂不
 利也

臙燭早とて白昏のどく。人殺國はく。く相譚る物のいひさま。
 盗賊あはれざり。宝樹はけと。とらびて赤つくと。南朝第一の
 博士るり。北島准后親房卿の宣ひ。一とをあれ。白氣を昏時。又丘陵の
 間みえて。その出入る。赤とを。中。必。金あり。と。白澤圖。又黄金の
 氣ハ赤し。夜ハ火光あり。又白氣あり。と。本草あり。と。とら。く。金
 の妖精あり。浅も積。と。く。或ハ白氣と化り。或ハ青蛇とあり。或ハ黄を
 とると。事類賦あり。載。り。る。豈。金。浅。の。と。く。韓幹が畫る馬も。
 鬼を乗せ。く。走り。金固が画る馬ハ夜荻戸の芳宜と食。伊勢國の古
 唐の繪るハ疫鬼を乗て。唐山嘉禾門橋の石刻。夜見ハ夜生。人。と。切
 つか相摸踏る。石地。化。て。旅客。小。破。く。と。ら。く。大。刀。夜。裳。古。書。画
 の類。年。と。積。と。く。け。と。く。その精。鬱。と。崇。あり。と。ら。く。鬼。の。為。り。
 必。奪。ひ。去。ら。う。と。郎。瑛。ハ。怖。う。と。て。過。去。と。引。き。未。来。と。終。り。宣。ひ
 たる。く。傳。く。使。け。ば。ま。も。正。く。貨。物。の。妖。怪。あり。や。あ。く。ん。び。ん。と。
 ぶ。づ。く。や。ど。毛。骨。と。ら。怖。く。も。怖。く。見。さ。ゆ。ん。と。腰。あり。徒。と。脱。出。て。
 細戸の扇と。密と。用。ひ。た。塵。芥。落。の。簾。子。より。彼。首。是。首。と。瞻。仰。ハ。
 五十目掛の臙燭と。大燭。臺。四。五。本。へ。と。げ。ゆ。の。く。と。ら。く。老。る。あり。弱。れ
 あり。和。風。倍。漢。様。あり。或。ハ。武。者。態。の。つ。め。げ。あり。或。ハ。美。婦。人。の。白
 ちる。高。族。の。義。衣。被。る。ハ。秦。よ。入。ん。と。と。呂。不。韋。り。と。と。文。屋
 康秀が歌。藤。よ。似。う。薪。負。る。山。人。の。花。の。蔭。は。休。め。る。ハ。大。伴。黒。主。が。舟。と
 泳。ぶ。る。み。や。と。よ。く。朱。買。臣。が。鏡。書。ふ。似。う。古。往。今。来。あり。て。日。本
 唐。山。の。天。一。坐。人。と。と。く。人。よ。の。く。鬼。と。と。く。寛。鬼。よ。の。く。と。ら。く。これ
 年。来。る。の。庫。よ。籠。る。諸。方。の。道。具。質。が。假。ハ。形。状。と。顯。く。と。の。れ。く。が

唐の繪るハ疫鬼を乗て。唐山嘉禾門橋の石刻。夜見ハ夜生。人。と。切
 つか相摸踏る。石地。化。て。旅客。小。破。く。と。ら。く。大。刀。夜。裳。古。書。画
 の類。年。と。積。と。く。け。と。く。その精。鬱。と。崇。あり。と。ら。く。鬼。の。為。り。
 必。奪。ひ。去。ら。う。と。郎。瑛。ハ。怖。う。と。て。過。去。と。引。き。未。来。と。終。り。宣。ひ
 たる。く。傳。く。使。け。ば。ま。も。正。く。貨。物。の。妖。怪。あり。や。あ。く。ん。び。ん。と。
 ぶ。づ。く。や。ど。毛。骨。と。ら。怖。く。も。怖。く。見。さ。ゆ。ん。と。腰。あり。徒。と。脱。出。て。
 細戸の扇と。密と。用。ひ。た。塵。芥。落。の。簾。子。より。彼。首。是。首。と。瞻。仰。ハ。
 五十目掛の臙燭と。大燭。臺。四。五。本。へ。と。げ。ゆ。の。く。と。ら。く。老。る。あり。弱。れ
 あり。和。風。倍。漢。様。あり。或。ハ。武。者。態。の。つ。め。げ。あり。或。ハ。美。婦。人。の。白
 ちる。高。族。の。義。衣。被。る。ハ。秦。よ。入。ん。と。と。呂。不。韋。り。と。と。文。屋
 康秀が歌。藤。よ。似。う。薪。負。る。山。人。の。花。の。蔭。は。休。め。る。ハ。大。伴。黒。主。が。舟。と
 泳。ぶ。る。み。や。と。よ。く。朱。買。臣。が。鏡。書。ふ。似。う。古。往。今。来。あり。て。日。本
 唐。山。の。天。一。坐。人。と。と。く。人。よ。の。く。鬼。と。と。く。寛。鬼。よ。の。く。と。ら。く。これ
 年。来。る。の。庫。よ。籠。る。諸。方。の。道。具。質。が。假。ハ。形。状。と。顯。く。と。の。れ。く。が

世と墓のり。夏牙と語り慰むる。現由物の執念の有情小出て心
 小入る。古き女の小袖と買てその袖口より細中なる。ゆせう半く
 招くと眼前へと入る。世の怪談も誣がごとく。つらるとを語りやへり
 皮をちと踏かふる。大和松木の管階子。轉ると彼如へたれがと一段
 へん。吐息二段踏んで又踏踏。三段四段とやうやふ。欄干の蔭より
 頭と擡て。どんまじり上座。一筒の老翁。鶴衣よ中袴。く流書先生
 と稱するあり。そ何物ぞと孰視せば。和細工の唐木造り。舊の主こそ
 定うる。ね裏小延喜の年号記せ。その容異形の教業あり。煤び
 随ふ黒く手擡と。幾許の書と流けん。とこの時代ととひやれ。
 この席上あり第一番の博士と入る。物體あり。

第一

讀書先生の教業

そのとれ流書見臺先生席を信とえこじて靴びとる。咳。往古学校
 の盛る。世ふへ大学博士あり。音博士あり。その後又文章。明法。陰陽。算
 算。周易。漏刻。木の諸博士と云れ。その道を傳へるの業を受へる。俊
 傑の学士のと云る。その比の某も。昔江の名家と膝をたす。日小生小
 号。敬せられ。が学校廢と。後。且く少納言。入道。信西の家。小あり。かくて保え
 の擾乱。人のを猛く。三綱既。乱と。相語へ。さ友もや。村儒
 寄宿。と云く。年月と。せふ。いぬ。延元の。南朝の博士。流書翁
 不伴と。吉野の。皇居。近くと。れ。殊更。鍾愛。せ。月。六。森の。講
 席。と。缺。び。その。家。三世の。重宝。と。當主。の。甚。く。墮弱。の。手。習。学
 同。大。嫌。ひ。家。公。の。世話。と。死。死。と。一。年。と。中。立。ぬ。大。酒。と。飲。出。
 類。と。り。て。聚。る。友。と。ら。ふ。れ。遊。女。の。品。定。と。飲。と。買。と。遣。ひ。足。な。ば。

家傳の書と一部售て三方金にりある智恵を中。経籍史傳
 歌書雜書和漢の珍書いふは小紙魚の肚と肥そのと折と投とさ
 ところの何のりとも譯らぬは唐宋名家の法帖と芝居の番附とさ
 とさひ延喜天福の詠草ハ熟妓の艶簡とと娛からむとさ紙屑同紙
 小賣りの損買りの得缺本の仏書ハ消壺の蓋と張とさ火宅と
 脱とさ古板の方書ハ炮爐とさ炙て黄るとさ小至る壺とさ
 孟子ハ絨めとさ戸の節孔と塞とさ終りて濶隙の一句と遺
 彼書と燒と儒と坑とと笑え。秦の始皇の悪政と易経曆書
 残り小驕奢と省と衣食と落し年と共と積貯ハ父祖の書
 酒の為小一部も遺さば沽却る残るも牙とひとつ。くたび
 道具屋のハ小通らんとさ正ハ家公の像見と負劬勞
 涙とさ小幸とさり留め腰巻もハ崩まかりし土蔭の棚へのげ
 らとさ日待の茶番年忘との素人淨瑠璃の見臺と調宝から
 ら朽とさ宋人の章甫と楚人の冠とさ劣る果ハ質屋
 の庫住ハ罪とて縲絏の恥也晴主ハ侍ハ身の不覚各位の公の中と
 推量らとさ痛とさ苦とさひけとさ衆皆頻と嘆息と。現
 先生の宣と宝とさ牙のさくえと凡夫の手前務子先祖の
 千幸万苦と組とさ家庫所領と懐とて取る子孫ハ徳もハ
 ちりけとさ不自由とさぬ洪福と洪福とさひもけとさ淫酒の為小
 ぶとさ宝と忽地失ハ大慾ハ所謂と慾とさらぬと寔小人のさ
 おと後ハ糸ののあじ唐山ハ戦國のさく。とさその子と質とて敵ハ
 遍とさ大日本の上古ハ人のさ淳朴とさ人質とさり

好事屋
宝樹が寶庫の
二階小おいて
読書先生
勸学の如

平ノ将門

橋をやり女児

諸葛孔明

讀書先生

紀ノ名虎

玉藻ノ前

寶庫庫卷

曾我五郎

大碓ノ虎

九



小保元平治の播乱より。親子の間でも兄弟でも。あつくりりて由致
 せむ。壽永のちのち木曾殿へその子志水冠者を枉ぐ。豫金之質入し。
 又元弘の三年の不足利とのほの三男千寿王と質して相摸入道へ遍与
 甘一以来些旗色がらうと人質おのく遺録せぬ大将の稀みえし。
 どのの采枯得失へ人間の常あるか質屋といふの世ふるの金の融
 通絶て貪乏かたきよとてあはじ人質と道具質と品こそかかれ俺們
 へ主の先途よしつる忠臣世々の史藉は裁らして。芳名を留むる
 小可堂い子でも質小おけべ衣類雜器ハ何ともあへど。百の餘計は借ん
 とく。功者小主管と口説のそ。受度と日の遠慮せむ。嵐芽ハ両損と
 ちのめらら瑕物よ踏むとて推曲らる厄限果てせよ歩くも質の流
 と賤めらる。過世つる悪報ぞや。鳥の頭を向くる。馬の額へ角々
 生ても。かくちで利足が岌でハ舊と返る日ハあはじ。嗟夫朽や。とまを
 りろとも小声あり立て発憤しハ。読書先生も湯うらり。その述懐ハ
 理あり。各位の寛みと。宝ハ牙のさし替といふは善悪二あり。清負ふ
 ちく世よ零落と親の為主のたよ。金との後ハかみのねとて有べき
 物と沽却。ゆむむくた什物ハ且く質入さるとも。恨むべきよあはじ。
 淫酒の為ハ牙の皮剥。白徒ハ品うらりて。かる忠孝信義の人ハ年中質
 屋へ奉りて。文人ハ方策を售らむ。武士ハ腰刀を質小置む。これその
 本と志まばる。その本乱と。末もさる。ハ和漢の宝つらとハあれど。
 仏法僧の三宝も。まじり書藉のそたつ。ゆもあはじ。疎之大約盜賊の
 目かすりの第一ハ金錢。第二ハ衣裳。第三ハ大刀。第四ハ鋼鐵。第五ハ
 雜具のつぐ。各癖の由断とてとてハ乾く。洗濯繻絆とて水入口

目かすりの第一ハ金錢。第二ハ衣裳。第三ハ大刀。第四ハ鋼鐵。第五ハ
 雜具のつぐ。各癖の由断とてとてハ乾く。洗濯繻絆とて水入口

の因^{ゆゑ}に紙^し入^い入^いま^ます。動^かとれ^ば茶^ち釜^{かま}と外^{そと}し。茶^ち灌^{かん}とさ^らふ^は各^{おの}各^{おの}の^{こと}。
 一^{ひと}帙^し五^ご圓^{げん}金^{ぎん}の唐^{たう}本^{ほん}が鼻^びの先^{さき}へ投^なりてあ^らず^も方^{かた}策^{さく}の^と捉^とて^まる。盜^{たう}賊^{さく}の
 いと稀^{まれ}なり。やその。價^{あひ}と知^しりて盜^ぬむ^も。珠^{ちゆ}書^{しよ}の^と印^{いん}あれば。
 道^{みち}とさ^らふ^は便^{べん}あり。信^{しん}の道^{みち}よ^り入^いる^のも^らら^ざ。倍^{ざい}の^と賊^{さく}でも^もぬ^れ人の
 宝^{たう}とさ^らふ^はその^のの^の経^{けい}藉^{せき}史^し書^{しよ}よ^りめ^りる^は小^{せう}か^る宝^{たう}と宝^{たう}とせ^{ざる}の^の宝^{たう}と知^らぬ
 迷^{まよ}ひ^て持^もつ^て武^ぶ夫^ふの^の宝^{たう}とさ^らふ^はの^の弓^{きう}馬^ま六^{ろく}具^ぐの^の武^ぶ器^きよ^りめ^りる^はさ^らふ^はれ^ども^も文^{ぶん}の
 暗^{くら}け^しま^は真^{まこと}の^の弓^{きう}馬^まと^のの^の商^{しやう}賈^かの^の宝^{たう}とさ^らふ^はの^の四^し方^{ぱう}雲^{うん}顧^こ乃^{なり}
 君子^{くんし}の^のり。ま^れれ^ども^も算^{さん}筆^{ひつ}小^{せう}疎^そけ^しま^は。一^{ひと}月^{げつ}も^も世^よの^のこ^らも^も武^ぶ士^しの^の武^ぶ士^しの
 学^{がく}問^{もん}あり。商^{しやう}賈^かの^の商^{しやう}賈^かの^の学^{がく}問^{もん}あり。士^し農^{のう}工^{こう}商^{しやう}の^のけ^くか^ら家^か業^{ぎやう}よ^りつ^て
 よ^うと^と信^{しん}め^り行^いひ^を信^{しん}む^りの^の聖^{せい}人^{にん}の^の徒^たと^のい^ふべ^し。故^{ゆゑ}に^のあ^らる^べ武^ぶ夫^ふ
 の^の弓^{きう}馬^ま劍^{けん}法^{ぽう}農^{のう}夫^ふの^の時^{とき}と^のま^らず^とて^よく^く耕^{かう}一^{ひと}耘^{えん}も^も山^{さん}妻^{さい}の^の蚕^{さん}飼^{かい}と^のよ^う
 積^つむ^は機^き織^しる^も。番^{ばん}匠^{じやう}の^の規^き矩^こ準^{じゆん}繩^{じやう}り^て。柱^{ちゆう}と^とさ^らふ^はも^も商^{しやう}賈^か乃^{なり}
 算^{さん}盤^{ばん}取^とて^のの^の本^{ほん}錢^{せん}と^の減^{げん}さ^らる^も。ま^らず^とれ^ども^も聖^{せい}人^{にん}の^の教^{きやう}ひ^てこ^こに^にか^れば
 人^{にん}間^{かん}用^{よう}の^の所^{しよ}他^たと^の悉^{しつ}く^も儒^{にゆ}の^の教^{きやう}ら^らば^は聖^{せい}人^{にん}の^の教^{きやう}ひ^てこ^こに^にか^れば
 さ^らず^と道^{みち}よ^りら^ざる^はは^は家^か来^{らい}の^の主^{しゆ}と^の教^{きやう}ひ^て子^この^の親^{しん}と^の嚴^{げん}び^し妻^{さい}の^の夫^ふよ^り冊^{さく}の^の朋^{ぽう}
 友^{ゆう}の^の信^{しん}と^の及^{きつ}。長^{ちやう}者^{しや}の^の坐^ざと^のゆ^づり^る少^{せう}の^のと^の隣^{りん}と^のあ^らづ^け。嫁^{よめ}と^の
 塔^{たつ}入^にの^の式^{しき}三^{さん}献^{けん}年^{ねん}賀^が追^{つい}善^{ぜん}の^のハ^ハら^らら^ら飯^{めい}碗^{わん}の^の左^さよ^よ春^{しゆん}筋^{きん}と^の右^うよ^よ採^{さい}と^の追^{つい}
 ろ^ろ聖^{せい}人^{にん}の^の教^{きやう}ふ^はつ^つ。礼^{れい}節^{せつ}の^の端^{たん}と^のま^らず^とさ^らふ^はの^のが^ら身^みく^くの^の聖^{せい}人^{にん}の^の遺^い徳^{とく}
 と^のあ^らは^はむ^も亦^{また}是^{こゝ}天^{てん}地^ちの^の萬^{まん}物^{ぶつ}を^の化^{くわ}育^{いく}と^のれ^ども^も萬^{まん}物^{ぶつ}の^の天^{てん}地^ちの^の徳^{とく}と^のま^らず^と親^{しん}の^の子^こと^の養^{やう}育^{いく}と^のれ^ども^もその^の子^この^の却^{けつ}又^{また}母^ぼの^の恩^{おん}徳^{とく}と^のあ^らは^はむ^も如^{ごと}く^く。普^ふく^く徳^{とく}と^の布^ふ
 ろ^ろの^のが^ら。その^の徳^{とく}と^の種^{しゆ}と^のま^らず^とと^の名^なつ^つけ^て仁^にと^のい^ふ。ま^らず^とふ^は人^{にん}も^も井^いの^の
 底^{そこ}の^の蛙^かひ^ひと^のく^く。大^{たい}海^{かい}の^の淵^{えん}と^のま^らず^と三^{さん}尺^{せき}四^し方^{ぱう}の^の井^い戸^こ側^{がわ}よ^よ推^{おし}當^{あて}て^の大^{たい}海^{かい}

衆皆驚きこれと云ふ。古金襴の袋小袖。金覆輪の袴と穿。洞金造
 つゆめと赤洞鮎子。丸鞆の帯と締。重汚の腹巻。小南蛮鍔。鎌の刀猪
 と懸て金無垢の沸。まじはるの細く。意先揚。うら形勢。同りねど
 名と云ふ。勇士の骨相。まじ。流並の友。四丸。五幕。食後の名。他中。と感ぜぬ
 りのへる。りけり。彼社。仗への。うと。時で。贈る。目貫。又。緋を。と。死。ま。と。い
 覺。又。と。切。り。て。白。ひ。の。で。死。息。を。吻。せ。世。は。朽。を。死。正。も。あ。る。ね。こ。ん。の。往。昔。建
 久四年。時。の。五。月。の。兩。夜。の。將。合。曾。我。五。郎。小。伴。と。云。二。孫。祐。経。と。誓。と。り
 時宗。秘。傳。の。マ。銘。の。大。刀。と。云。る。小。つ。の。經。と。云。源。氏。の。重。宝。清。緑。と
 又。友。切。丸。の。名。を。負。せ。る。故。は。一。旦。紛。失。し。て。鬼。王。亦。苦。を。被。お。と
 彼。亦。も。恨。て。友。切。丸。と。云。索。の。由。多。小。名。の。錯。悞。と。ら。急。に。出。せ。と
 今。小。至。て。入。海。緑。と。呼。ぶ。り。の。こ。を。あ。け。き。ま。る。も。も。ち。ぬ。由。お。あ。り。て。友。切
 丸。と。稱。と。る。と。送。恨。の。至。り。言。語。同。断。と。の。と。う。う。と。説。あ。る。と。い。ふ。い。ふ。い
 づ。が。名。と。訛。と。ま。ん。お。も。あ。ら。ば。と。い。ひ。し。よ。今。夜。の。團。坐。ハ。秘。が。ふ。又。幸。ひ
 ち。づ。が。素。生。と。彈。と。し。耳。う。う。立。て。つ。の。り。抑。五。十。六。代。の。聖。主。清。和
 天皇。より。四。代。左。馬。次。源。朝。臣。撰。及。子。甲。と。在。せ。り。と。云。世。の。人。多。田。満。仲
 と。稱。と。ま。る。ふ。満。仲。と。申。し。り。と。云。ふ。者。あ。る。小。う。て。有。一。年。筑。紫。の。假
 治。と。召。ま。り。し。二。ツ。の。大。刀。と。造。り。し。ま。ふ。件。の。假。治。ハ。名。譽。の。り。の。あ。り。と。云。

八幡宮へ七日社系し。公孫頰丹精と抽つ。凡六十日ありて。最上の大刀
 二口とぬり申し。長サものく二尺七寸。満仲サげて有罪のり。の。と。切。せ。て
 これを。試。し。ま。ふ。一。ツ。の。大。刀。ハ。罪。人。の。鬚。を。か。て。切。り。け。し。と。云。バ。鬚。切。と。い。ふ。を
 名。つ。け。又。一。ツ。の。大。刀。ハ。膝。を。か。く。切。り。け。し。と。云。バ。膝。丸。と。い。ふ。と。云。名。づ。け。ら。る。か。て。

満仲の嫡男。頼光朝臣の時小至。美田源次綱有一夕一條大宮へ使

ことごとく。彼鬚切を主と借りて帯へし。不慮小らの大刀をりて。
 鬼の腕と切ちり。よりて鬚切を更め。鬼切とぞ呼り。ふのさ
 我老病床小。搦丸の大刀をりつ。山蜘蛛を破り。正あり。よりて搦丸
 とも改名して。蜘蛛切とぞ呼り。さ。その二口の宝刀とぞ。満仲より
 六代の孫六條判官為義が家小。使り。有。一。彼二の大刀
 吼とぞ。酷く。鬼切が吠る声。獅子の鳴ふ似たり。又鬼切を改て
 獅子の子と。まを名づけ。蜘蛛切が吠る音。蛇の信ふ似たり。と吠丸
 と改名。さ。行小為義判官。彼吠丸と。誓り。出。して。熊野別當教
 真小。より。小。から。宝刀と。教真が。身小。著。さ。小。ゆ。ど。さ。く。権現へ。進
 志。より。ける。ふ。え。曆の。え。ぬ。範。頼。義。経。謙。倉。殿の。代。官。と。して。平。家。を
 西海。に。討。つ。日。熊。野。別。當。湛。増。ひ。り。教。真。が。為。義。より。得。り。け。れ。

吠丸の大刀をりて。義経へ贈りし。う。ば。義。経。殊。よ。う。り。こ。び。て。示
 吠丸と更て。汚緑と名つけし。これ。熊。野。の。春。の。山。の。緑。と。り。け。て
 出。し。れば。汚。緑。の。名。と。負。せ。し。か。て。義。経。へ。舎。兄。頼。朝。と。不。和。小。り。
 大切ありと。し。ども。謙。倉。へ。入。り。ま。さ。ど。空。く。腰。裁。より。追。え。し。て。京。師
 への。や。り。ま。え。を。願。の。音。あり。て。彼。汚。緑。の。大。刀。と。箱。根。権。現。へ。奉。納。ま。さ。り
 け。り。と。建。久。四。年。五。月。廿。八。日。曾。我。五。郎。時。宗。又。の。仇。工。孫。祐。経。を。殺。ん
 と。さ。り。し。た。箱。根。山。へ。ゆ。り。て。別。當。行。実。よ。外。ら。牙。の。暇。と。告。り。し。

行。実。も。ち。や。その。気。を。猜。し。て。彼。汚。緑。の。大。刀。を。り。出。し。時。宗。

与。一。く。ば。の。大。刀。を。り。し。か。り。人。隨。小。仇。人。と。ば。殺。め。ら。た。り。し。

その。ら。汚。緑。と。ば。謙。倉。へ。取。れ。し。は。太平。記。の。劔。の。巻。小。り。の。劔。の
 巻。と。し。り。の。も。舊。の。太平。記。の。首。巻。小。の。あ。ね。ど。古。書。あり。り。の。説。

十四ノ系
不教真
一熊野
別当長
快子
湛法師
子湛増
實ハ鳥
美の子
と注す

條よ法皇御護の御劔去年紛失と去る比江判官公朝これと求
 ぬて献上せし風聞とるの間今日二品御書とりつて公朝ふ仰
 らる是は左典厩輔の六刀を奉獻せし所也吠丸侍鳩こころり
 同書文治元年九月二十日の條ふ參川守範賴朝臣系去月二十日
 西海より入洛と云西小松と云仙洞の重宝御劔鴉丸と尋取り今度進
 上し流ぬと云平氏の黨類壽永二年城外の刑清経朝臣御劔二
 腰と取せり吠丸鴉丸と云るなり今この文より由と云は為民吠丸と熊
 野別當教真ふと云ふその湛増の手より教経と云を以て清経と
 改名し遂に箱根権現へ進せしよりと云箱根別當行実あまこと
 曾我五郎よとせしよりといふ初巻の説も又信がごとく彼吠丸の
 美朝のと云後白河院の御護刀も進せしものひくふ壽永二年の
 比清経朝臣と云と取て西海へきるといふども平家ゆく行ゆなく
 滅亡せしと云文治元年九月の比再び院の御劔と云るなりと云
 東濫を澄文と云べしとのころと批評せれば為美よりや女督
 るのといふともなるなりと云土家人と云熊野別當教真へ源家の重
 宝と云吠丸の大刀と云と云べしと云を教真へ与て後悔し更一口
 の新刀を造せしと云るが舊刀の為小二分と云り切縮と云るとて獅子
 の子を改めく友切と名つるといふ説へ怪後よと云りといふ信
 がごとく又東濫小我と云る所の鴉丸の御劔へ保え物語も云んえて
 為美判官子とも殿俱して新院の御身方小なりしと云親院御感
 のありし近江國伊底の莊美濃國青柳の莊と云ふ賜りしと云る
 鴉丸の御劔と云るなりこの鴉丸へ白河院神泉苑と御幸なりと云

鶴とつるせとくゆ後トくる小。殊小速物とせえしる鶴が不圖水中へ入
 被さあげしる。金覆輪の大刀あり。白河院殊小秘蔵ありしりく。
 鳥羽院へ傳くさせのひも。羽院又崇徳院へするのどしひけれせ。
 為系判官へ賜てりり。かれば為系入道降人となりて。嫡子の系教を
 憑きて身とせしる。彼鶴丸と名。系朝へむづりよれりて。由緒
 ある大刀あり。後白河院の御護刀小召とせしるる。東瀛は初
 めの吠丸時鳩と記し。次の條あり吠丸鶴丸と記せし不審。系朝の
 と死鶴丸と時鳩と改名せし。又時鳩は源氏の重宝鬚丸の一名歟
 尋ねばがのどく実録ふしり。その本と推し死へ曾我五郎小伴れて。五
 祐経と譽しし。其の源家の重宝友切丸あり。又系経の源経と
 改名せし。といふ吠丸あり。只時宗が仇人祐経と譽ん科小年未
 試くと剣は洲。其の源家の刀あり。時宗は古今マ双の勇士あり。その夜
 比類するに働しくけし。大刀も名のさ記あり。されば。其の當時の
 小説作者が或の源経とあり。或の友切丸とあり。其が功名と
 空しく。吠丸友切小奪れし。されば大刀の事と記せ。書名小劔の巻のど
 唱ふる。中葉より大刀と劔と混雜し。ひそく小むねしるの誤なり。
 和名抄は劔の和名と記せ。別は屋簷を奉て文選の流豆流岐と注
 せり。今按ぶる小属鏝の。吳王夫差が伍子胥へ賜する劔の名あり。劔と
 豆流岐と和名せんものから。さて和訓。つるふといふ。つるふの義あり。
 両刃あり。劔とも豆流岐ともいふ。又和名抄あり。一刃と刀といふ大刀。
 和名太知。小刀加太那と注し。たちゆか。たちゆかの義あり。一刃のり。小限なり。
 和名太知といふ。たちゆかの義あり。たちゆかの略。小刀加太那。

と和名抄注一など。今服指と唱るりのへかきま。ましかると
 唱るりのへとら。今のかこる。片午ま。羅むりのふあぶ。らま
 とも。和名の物。まりのあれど。久くもそ。その悞と。まぶやうりん
 職原の入ふらぬ。又今の人。小く。まに。唱るりのゆ。和名。賀太奈心。
 和名抄。刻鏝の具の部。刀子。錐。鑿。とるぶ。出せる。この字を被て
 唱るりのへとら。後のとら。とら。劔の巻。小記と。とら。合点。まぶらる。
 鬼の鬼神と熟と造化の迹あり。又寃鬼と。つ人と。死へ。出霊の
 類も。う。う。形るりのゆ。まぶ。小綱。う。う。形るりの。鬼の手
 と。切。う。う。ら。又獅子の天竺の猛獸。う。唐山。まぶ。も
 る。ゆ。りの。まぶ。為。う。う。獅子の。う。う。て。大刀の名
 あ。せ。ら。は。や。ん。野猪と。ぬの。まぶ。又。略。う。まぶ。まぶ。真の獅子

あ。あ。まぶ。まぶ。まぶ。大刀。小名。つ。ら。まぶ。目貫。小。う。う。鬼切
 の。目貫。小。獅子と。造。う。う。と。あ。う。う。獅子の子と。改名。まぶ。まぶ
 あ。ら。まぶ。まぶ。又。蛇の。泣。声。小。し。う。う。あ。ん。ど。り。山。見。う。う。
 大。蛇の。野。睡と。まぶ。う。う。と。あ。う。う。蛇の。泣。声と。まぶ。う。う。う。
 う。う。まぶ。まぶ。う。う。か。う。う。蛇の。泣。声と。為。う。う。う。う。う。
 う。ひ。り。この。判。官。へ。再。う。結。あ。う。う。又。葛。盧。小。う。う。の。まぶ。公。治。長。お。あ。う。
 じ。と。物。ふ。まぶ。まぶ。う。う。の。け。と。まぶ。お。か。み。信。う。う。が。う。う。又。吠。丸。と
 名。つ。け。と。別。う。必。以。あ。う。う。こ。まぶ。の。虚。実。を。辨。う。う。て。う。う。根。と。う。人。あ。う。
 う。け。れ。ど。る。毎。世。の。人。の。まぶ。う。う。の。曾。我。兄。弟。の。恨。と。う。安。元。二。年。十。月。
 彼。胞。兄。弟。が。又。あ。う。う。の。河。津。三。郎。祐。泰。へ。伊。豆。の。奥。乃。持。場。の。う。う。圖。ど
 う。矢。小。あ。う。う。う。忽。地。命。を。傾。う。う。時。小。一。萬。僅。は。五。歳。後。は。う。十。第。一。師。
 祐。成。と。名。き。る



伊東祐親入道

辰ひめ



伊東祐親

女児よ

遍て

頼朝の子

奪入

奪入

頼朝

伊東九郎祐清

祐親の三某甲

身箱王僅よ三歳時宗と名寄る 夢のさくらさくら見へ九歳
 才へ七歳といふとれより又祐泰を撃つるハ二原祐経が所為るは
 とまへて忽地復讐の志ありたり。まづるふ。治承三年の秋八月。前右
 兵衛佐頼朝高倉の宮の令旨をのりつゝまふらつて。まづ試みよ。伊豆の
 山木を討て石橋山小旗を揚。その軍利なきに。一旦没落志ありども
 廣常常胤ホが糸の助けふらつて。ついで頼朝の圍左ハ必とらら徒へ
 基と鎌倉よ関をぬくべ。そのふちでハ。平家の恩顧よ濟りたり。坂東
 武者ホ。まづハ旗色をえり縁を求め。鎌倉へ出仕さるといども。祐成時
 宗が祖父伊東祐親入道ハ義小伏て勢ひよ属く。小松少將惟盛
 の陣所へ糸の加らん。伊豆の鯉名の頃より。海上と廻らんと。駿河の
 かへ松出せり。天野藤内遠景よ生拘りて。黄瀬河の御旅亭へ
 引こらけり。小三浦二郎義澄ハ祐親が塔るれば。罪名よ落云の初と
 義澄よ預り。まづる小先年。祐親入道が。頼朝卿とまづりたり。んと
 まづるとき。祐親の二男。伊東九郎祐清密よこれを告るふらつて。その
 難と脱とあり。その志を食出されて。勸賞のまづりて。召りひ
 のふといども。祐清を推して受ど。天の口故とて囚徒とあり。ま
 小その子や。ついで恩賞と蒙る。まづる牙の暇とあり。まづり
 まづりて。平家へ死加らん。為小。かぐ上洛。恩の乃よ死とりて。報じ終
 討死し。今よ美談とせり。そのら鎌倉殿ハ。祐親法師が
 罪と宥め。対面せん。まづりて。祐親蓋く。ゆもまづりて。忽地自叙
 まづりる。縁故と尋ね。頼朝卿流人となつて。伊豆の伊東が宿所
 坐り。比。祐親が女見。小密通。と男兒を産。のり。父の祐親深く

十四巻の
 系圖よ
 河津二郎
 祐近よ
 作る祐近
 の嫡男
 祐道津
 津部と
 称これ
 祐成時宗
 か又あり
 又祐道の
 才伊東
 九郎祐
 忠は他
 の辨ハ
 次の巻よ
 さらり

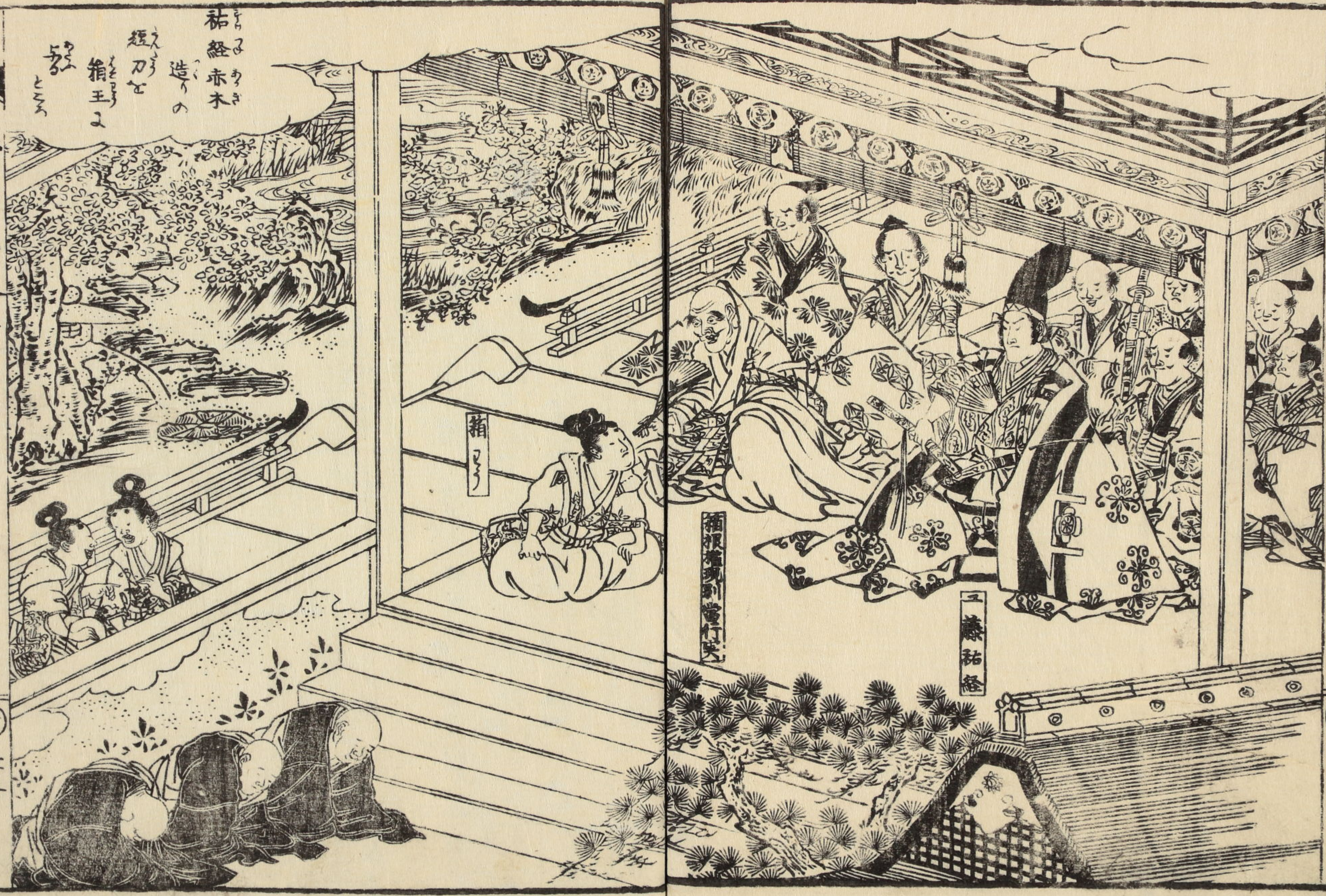
一本平
祐清を
祐親が嫡
子と大
系圖を
三男と
いれ
るをも

怒り。且平家の後でとるがゆゑ小出生の赤子をば家隸して失はせ。
又おれをとも。そりちあらんとしつるると祐親が二男祐清ハ遠謀
のりゆればおれが命運まは場どへ。父の骨相を知らぬ人の骨相は
脱まきて代の助と求るるべし。人の骨相を知らぬ人の骨相は
まべらゆおれえむこのとれ些の恩を施さばその志をばらんとれ小
父が餘命を繋ぐととるるべし。且その外孫ハ叙ととも。平家乃
免許と受どして頼朝さへ小害せんハ謀のよろしとあつど。父が謀畧
合期せどハ妹が密通の悪名とせし善くまらべし。その後は京師へ
すゆとも。既小出生の赤子を失ひれば平家の崇めららどと彼を
おひこしとあひて。そのの統をばらへ告るるるべし。あつ小世俗へい
平家を憎むのあまら。そのの理系と考どて只菅伊東入道と悪人と

のそりハたどり。彼祐親入道ハ元來平家恩顧の武士なり。あつる小
その女見が親の聽と受どして。隙と滑り橋と踰れおれつと密通して。
既小男見と産する小女見が不義の縁小連と平家の仇とるるべし人の
子と密り小養育ハ実小祐親入道ハ系ゆり恩ともあつぬりのつら。
彼北条時政がおれつ々の翼と獲んとおれと女見政子へつひのふ
とあつべ。山木判官へ婚縁と締べし。既よその密夫らつとあつといとも。
山木が勢い小憚りて。強て政子と嫁し。山木が宿所へ送り遣せしと。
祐親法師がわが系のみよ外孫と失ひと同とく流るべつどがもバ
祐親入道ハ。その増むさりのよあつ頼朝卿ハ大器量の大將ゆれば。
そのの理系と年へて。たどめハ九郎祐清と召出しく賞を行んとするよ。
受どしつハ忽ち舊怨と去く。祐親法師が死刑と免し。對面とあつん

と仰せしむ。かくてそと祐成時宗ハ祖又也伯又也。子家の方人のる小
 よつて世の中中狭くつらつて曾我太郎祐信ハ養子浮浪人ありあり
 るがら五郎ハ幼稚さうら。勇氣殊さうら。運一けし母公ハ終上禍を。
 惹出さん。と陪と。祝髪して亡又の菩提を吊へと教訓。箱根権現乃
 別當行実の弟子とて。衆て登山さうら。たきども時宗いそ復讐の志
 移。ど。遂に箱根と下山せうら。母公ハ責懲されて彼此と玲瑛
 めりやど。北条時政ハ五郎ハ勇敢鳥とんとん。意中ハ謀るう。あれば。
 とく手るづけて。化りあり。款待し。づから烏帽子親と稱て。これハ
 元服。時政の二字とよと。曾我五郎時宗と名告らう。うけ時宗
 の宗の字よ。さやぐの説あり。時政より六世の執権相模守時宗朝臣
 の乳名と。北條五郎と稱せり。曾我五郎時宗のむねハ致といふ字と書べし。

ことと時宗と書ハ北條五郎とさうら。つづること。さうら人もあれど東瀛也。
 曾我五郎時宗とあれ。誤といひ。むら。西行法師の俗名と佐藤兵
 衛義清といひ。う。あて則清とも憲清とも書らるが如く。このころの
 記録ハ人の名告も。訓のうら。入字といひ。く。ゆりつて書例あま。ば。
 曾我五郎の名告も。或ハ時宗と書あり。ハ時致と書らる。あれ。べ。か。
 推量の説と加ると。死ハ北条時宗執権の世。ハ。諱て致の字ハ代する。あ。や。
 とおぼし。さ。北条時政が。の。ど。く。る。我入帝と。う。ら。や。て。竊ハ。仇。殺。の
 後。う。ら。う。ら。る。ハ。真。実。よ。そ。の。考。え。と。感。激。せ。し。め。ら。る。べ。し。底。意。あ。ま。あ。の
 胞兄弟と欺と騙して。鎌倉殿と。う。ら。る。な。ん。ん。為。こ。そ。の。あ。ら。う。あ。と。の。れ。た。を。
 このと。平家既亡。び。て。四海の賞罰と。る。鎌倉の決。め。あ。ら。う。お。れ。り。
 世と早く。あ。の。う。ら。は。お。れ。る。月。幼。稚。し。あ。ら。う。ハ。海。内。の。権。柄。ハ。お。の。づ。ら。



祐経赤木
 造の
 短刀
 箱王
 と
 と
 と

爾我兄弟を賺せり。禪師公曉とて、のじて実教公を奪せり。北条父子の奸計や、やふ成勢して、於於々の統と徒九代の執権時めらぬ。公曉由又於家々の管とのひ比の如小ふして、その頭末と洋小せじ。時がくとして右大臣了て、又の仇を、さうらうらうと奪の、禪宗の武將た、んめ、禪師の外は、るるどい世と。公曉、ハ実言とるひ世と。又の仇も、ぬ叙又の大臣と奪せり。そのあらど、その牙も忽北条が為、よ殺され、北条父子が奸智、よ長る。曹操直義の上ふ也。當時人せば欺くと。いつて、天を欺と、ゆゑ後世、論定りて、人又その悪と、ゆゑの妻り。各位、何とるひ、ゆゑ、家抄録といふ冊子也。往昔の小説る、さびたれと、すまじき記、り、ゆゑ、鬼王の童の名る。曾我時宗の童名と箱王と、唱へ又箱根の行童。

壽王

東鑑文治九年二月十二日の樂童

あつ、又後寛僧都の童、扈從、よ有玉龜王、又為、我の、季

子、天王あり。源義経の乳名、遮那玉也。名、峯小、違、あらば、こまら、を、を、鬼王、由、又、童、の名、る、ゆゑ、と、ま、る、東鑑、建久四年五月廿八日の條、曾我五郎と大見小平次、よ、預、り、る、ゆゑ、の、あ、れ、ど、近江、小、平、太、と、い、ふ、の、か、え、ま、ど、新、左、門、團、三、郎、の、後、人、の、誘、也、就、中、時、宗、朝、夷、が、草、摺、引、こ、い、こ、ハ、絶、て、は、し、こ、ま、に、建、保、元、年、夏、五、月、の、和、田、合、戦、に、朝、夷、三、郎、義、秀、が、足、利、義、氏、の、禮、の、草、摺、と、引、ま、め、て、組、人、と、し、り、け、は、義、氏、の、勇、力、お、敵、が、こ、と、ひ、て、馬、よ、拍、り、と、奔、ら、せ、り、草、摺、ハ、非、と、断、離、と、て、朝、夷、が、手、小、残、り、主、の、違、よ、脱、と、太、と、東、鑑、の、餘、の、軍、記、に、記、せ、を、撮、合、し、て、か、て、義、氏、と、曾、我、五、郎、小、傳、り、を、え、り、て、彼、朝、夷、ハ、和、田、義、盛、が、三、男、と、木、曾、義、仲、が、妻、朝、繪、が、産、と、ら、る、り、元、暦、元、年、春、正、月、木、曾、義、仲、ハ、近、江、の、栗、津、と、討、死、し、り、比、朝、繪、ハ、和、田、義、盛、に、生、拘、ら、る、義、盛、朝、繪、が

勇力小愛て。孫会殿へまじりて。こまを娶て。朝夷を産し。これ建久
 四年。曾我五郎が又の誓祐經と娶し。つるさねの朝夷。僅よ九歳の比。
 或と七歳ありとも。つるさねは秀力の人といふとも。よのさね
 時宗と力競せ。蟪蛄の車小向が如けん。彼後秀と朝夷と唱る。人
 安房小朝夷郡あり。り。つるさね所領のじや。つるさね。人つら
 かくてある。りのと友切丸あらざりて。友切丸とつらさねも。憤る。小足らば
 とせん。款。さへ。つらさね。と小藤と敵。席と拍。つらさね。け。と。衆皆
 吁とぞ感。らる。



昔話質屋庫卷之一終

